

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	演劇
----	----	----	----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	ゆうげんがいしゃ とうきょうえんげきあんさんぶる		団体ウェブサイトURL
	有限会社 東京演劇アンサンブル		http://www.tee.co.jp/
代表者職・氏名	代表取締役 津金洋子		
制作団体所在地	〒	352-0011	最寄り駅(バス停) 菅沢中央(バス停)
	埼玉県新座市野火止3-16-24		
電話番号	048-423-2521		
ふりがな 公演団体名	とうきょうえんげきあんさんぶる		団体ウェブサイトURL
	東京演劇アンサンブル		制作団体に同じ
代表者職・氏名	代表 志賀澤子		
公演団体所在地	〒		最寄り駅(バス停)
	制作団体に同じ		
制作団体 設立年月	1954年12月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表取締役 津金洋子 取締役 小森明子		〈構成員〉 劇団員43人 俳優部40人 演出部1人 制作部4人  〈加入条件〉(俳優部)劇団附属俳優教室の卒業生もしくは2年以上の俳優経験者。運営委員会の推薦承認が必要。(制作部・演出部)運営委員会の推薦・承認。
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	太田昭
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	矢嶋敏恵
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	akira@tee.co.jp		

<p>制作団体沿革</p>	<p>1954年俳優座養成所の三期生を中心にした「チェーホフ研究会」が劇団三期会として設立。演出家の故・広渡常敏を創造の中心として活動を展開してきた。1957年、紡績女子労働者たちに取材して集団創作した『明日を紡ぐ娘たち』を上演、社会的にも大きな反響を呼び、この作品が劇団の演劇論を支える核となる。第一回岸田戯曲賞受賞。1970年、劇団名を「東京演劇アンサンブル」と改称。1980年、練馬区武蔵関に拠点劇場「プレヒトの芝居小屋」を構え、既成にとられない空間、演劇づくりを展開。このユニークなオープンスペースは、文化人の集う劇場としての機能を果たした。2019年諸事情によりプレヒトの芝居小屋を閉館、新座市に拠点を移し新たな稽古場・野火止RAUMを創造の源泉として活動している。1990年から定期的に海外公演を実施。これまでに11ヶ国22都市での公演を実現。日本の現代演劇を世界に紹介している。2006年5月、「プレヒトの芝居小屋」の活動が高く評価され、広渡常敏が倉林誠一郎賞を受賞。2007年3月、劇団が湯浅芳子賞を受賞。2006年9月広渡常敏の死後、代表は入江洋佑・志賀澤子に。2019年8月入江洋佑の死により代表は志賀澤子。</p>		
<p>学校等における公演実績</p>	<p>学校公演上演作品(～1965年より～)  いやいやながら医者にされ(モリエール 作)／強制結婚(モリエール 作)／グスコブドリの伝記(宮沢賢治 原作)／奇蹟の人(W・ギブソン 原作)／十二人の怒れる男たち(R・ローズ 脚本)／ジョー・ヒル(B・ステイビス 作)／真夏の夜の夢(シェイクスピア 作)／走れメロス(太宰治 原作)／木かげの家の小人たち(いぬいとみこ 原作)／夜の空を翔ける(広渡常敏 作)／銀河鉄道の夜(宮沢賢治 原作)／思い出のブライトンビーチ(ニール・サイモン 作)／テンペスト(シェイクスピア 作)／コーカサスの白墨の輪(B・プレヒト 作)／国語元年(井上ひさし 作)／おんによる盛衰記(木下順二 作)／セチアンの善人(B・プレヒト 作)／ラリー ぼくが言わずにいたこと(ジャネット・タージン 原作)／消えた海賊(広渡常敏 作)  近年では、小学校公演として、はらっぱのおはなし(松居スーザン 作)／おじいちゃんの口笛(U・スタルク 作)などがある  年間50～80ステージ程度の学校公演を実施しています。  ——学校公演ステージ数——  【コロナ前参考】2019年度 『消えた海賊』36ステージ/『はらっぱのおはなし』14ステージ  2021年度 『消えた海賊』12ステージ(コロナ禍のため)  2022年度 『消えた海賊』34ステージ/『おじいちゃんの口笛』10ステージ</p>		
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>文化庁公演により 長崎・希望ヶ丘養護学校『走れメロス』  文化庁公演により 滋賀・甲良養護学校『走れメロス』  平成25年度、島根・出雲養護学校『銀河鉄道の夜』  ほか  ワークショップでは、東京都立石神井特別支援学校でのワークショップ実績あり。</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p><a href="https://youtu.be/gd5mob6NLBM">https://youtu.be/gd5mob6NLBM</a></p>	
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	
		<p>PW:</p>	

## 公演・ワークショップの内容

【公演団体名 東京演劇アンサンブル】

対象	小学生(低学年)		/
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	○	
企画名	走れメロス		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	作/太宰治 脚本/広渡常敏 演出/公家義徳 舞台美術/岡島茂夫 音楽/池辺晋一郎 衣裳/稲村朋子 振付/西田堯 大神田正美 照明/真壁知恵子 音響/田村恵 舞台監督/ 宣伝美術/長谷川集平 奥秋圭 制作/太田昭 小森明子		
	公演時間 80 分		
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況
演目概要	あらすじ 牧夫メロスは妹の婚礼衣装を買いに王都シラクサにやってくる。そこで出会った友セリヌンティウスから、王が城内で人を殺していることを聞く。メロスは王を正そうと城へ乗り込み捕らわれる。「人が信じられない」と語る王に、「人の心を疑うことと嘘をつくこと、この二つは俺のいちばん嫌いなことだ」と言い放つ。王は妹の婚礼を祝うため三日の猶予を与えるが、三日の日没までに城へ戻って磔になればメロスに言う。メロスはセリヌンティウスを人質に、妹のもとへ帰り、また城へ取って返す。だが帰路、メロスは洪水に襲われ、砂嵐にも遭う、そして最後には王の差し向けた刺客と戦う。時間はどんどんなくなっていく。疲れ果てたメロスは迷う。このまま戻らなければ？ しかし泉の水に喉を潤して迷いを払拭したメロスは、王との友との約束を果たすために、城へ走り続ける。		
演目選択理由	現在もなお中学校の教科書に掲載されている太宰治の名作。普遍的な友情、正義、葛藤、変化、成長など、人間が人間らしくあるための様々な要素が含まれている作品である。東京演劇アンサンブルでは、1990年代初頭の党事業の前身である『中学校へき地公演』から上演し続けてきた演目であり、定評のある作品の久しぶりの再演となる。子どもたちが、自分がどんな大人になっていくのか、どんな大人になりたいのか、悩み、考えるハイティーンズの時期に、自ら生きる道を選択していく力を持つことは、必要不可欠である。メロスが選ぶ生き方は、自ら困難である道を取って選んでいく。なぜ、その道を選ぶのか。走り続けるメロスの姿から、そのことを考え、感じ取ってほしいと思い提案する。中学生には特に国語の授業と連動した作品として取り組んでいただきたい。		
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	①全校児童・生徒による群読：走り続けるメロスに向けて、時に誘惑するように、時に鼓舞するように、太宰治の詩的な言葉を、全校児童・生徒の客席を4ブロック程度に分割し、順番に、劇的に群読していきます。 ②劇中歌を歌います。事前に担当の先生と打ち合わせて、全校で取り組むか、選抜メンバーで実施するかを決めます。 ③ラストシーンで、コロスとともにメロスと走ります。そのコロスとなって、数人に一緒に走ってもらいます。ただし、小学校公演の場合は、慎重を期す必要もあり、先生にお願いするなどの配慮をいたします。 ④学校の特色を踏まえて、打楽器などでの参加が可能であれば、参加していただきます。ex.和太鼓、ティンパニなど		
出演者	メロス/セリヌンティウス 雨宮大夢 和田響き 王様 浅井純彦 サラグ 永野愛理 ニサ 細谷巧 コロス 小田勇輔 三木元太 洪美玉 町田聡子 仙石貴久江 福井奏美 鈴木貴絵		
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 12 名 スタッフ: 7 名 合計: 19 名	運搬	積載量: 3.3 t パン 車長: 10 m 7m 台数: 1 台 1台

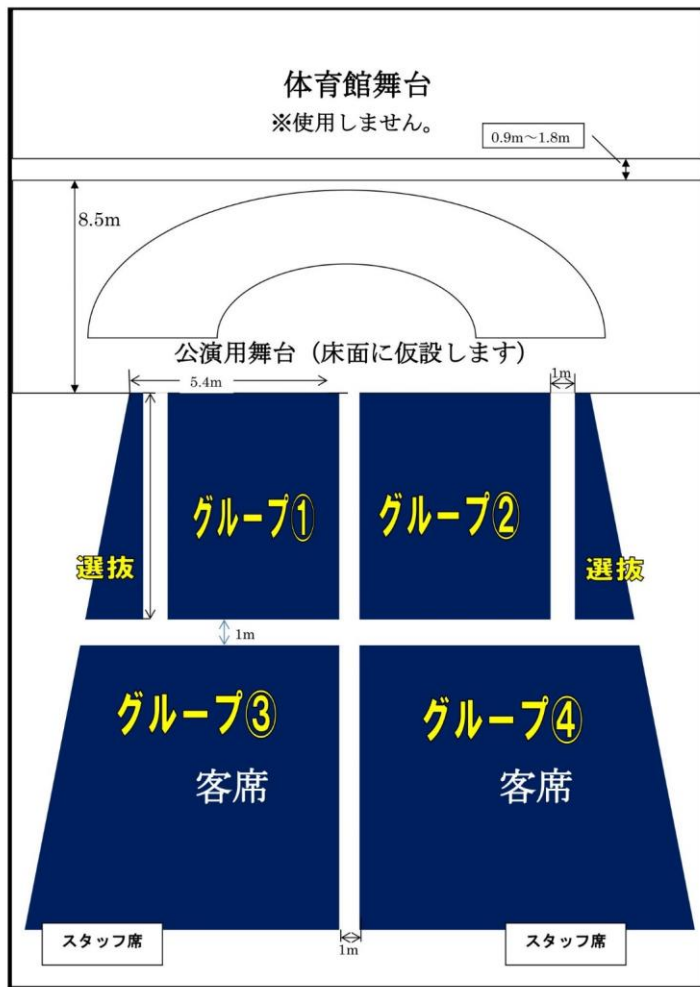
本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	有	前日仕込み所要時間		3	時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8:30	8:30	13:30	なし	14:50	17時00分

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演 実施可能日数目安  ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	12日					
	11月	12月	1月	計	51日	
	12日	15日	12日			

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	500
		鑑賞人数目安	500



公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

参考資料

東京演劇アンサンブル公演  
『消えた海賊』体育館舞台設営の様子



【公演団体名 東京演劇アンサンブル】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	500人以下
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>2時限を利用したワークショップを考えています。          主指導者1名、補助指導者4名、スタッフ1名</p> <p>1時限目          ①劇団紹介・自己紹介          劇団の紹介、作品の紹介、指導者の紹介をします。          ②ウォーミングアップ          声が出るように、身体を動かします。全校で実施予定なので、人数は多いですが、演劇的要素の含まれたものと考えています。学校規模で変えますが、そのあとの群読につながるような、声が出やすくなるようなウォーミングアップを実施します。          ③群読          実際に台本の群読部分をみんなで読みます。客席を分割して順番に読むのですが、ただ、読むのではなく、走るメロスを鼓舞するようなシーンでもあるので、演劇的な要素を加えた群読になります。読むごとに、課題を増やし、体育館中が演劇的雰囲気になるように、指導していきます。参加型のだご味が味わえるよう、実施します。</p> <p>2時限目          ソングの練習になります。          全校または選抜メンバーでのワークショップになります。          学校で触れる歌とはまた違った雰囲気の劇中歌のため、詩の内容や、劇のどの部分での参加になるかなどを伝えます。          そのうえで、ソングの練習をします。          終盤では、参加のタイミングなど、公演本番に向けた指導に移ります。          ※学校によっては、打楽器などでの参加が可能な場合は、後半でその練習などをします。基本的には即興に近い演奏で、走っているメロスに合わせて、演奏してもらうという形になります。          時間に余裕がある場合は、演劇的なコミュニケーションワークショップも盛り込みます。</p> <p>すべて、公演当日リハーサルをしますので、練習で心配だった部分も解消できるように準備いたします。</p>		
ワークショップのねらい	<p>太宰治の代表的な作品である『走れメロス』は、力強い文体でテンポが良く、また詩的でもあります。声に出して読むことで、いろいろな文体の特徴を実感できるようになります。          基本的には時間が限られているため、一人一人の指導にはなりません。群読として、声がそろったり、言葉から動きをイメージしたりということを体験してもらいたいと思います。          演出的な効果として、「畳みかけるような群読」は、メロスを後押しすることになります。</p> <p>公演当日には、タイミングを逸することなく、作品のどの部分で参加することになるのかを理解してもらうことも重要なので、その部分も大切にしています。</p> <p>劇中歌に関しては、いわゆる学校での唱歌とは違う、気持ちを込めた、自由な歌い方で歌えることを目指します。表現力を重視したワークショップを実施します。</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>学校の特色として、音楽に力を入れている、あるいは体験したいということがありましたら、打楽器での参加ができるようになります。事前にメールなどで打ち合わせをしたうえで、ワークショップを実施したいと思います。</p> <p>場合によっては、2時限目を2か所に分けて、並行して実施します。</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名

東京演劇アンサンブル

】

**①本事業に対する取り組み姿勢**

東京演劇アンサンブルは、どんな作品であっても、完成した作品を観賞用として提供するのではなく、同じ時間・空間を観客とともに体験するような舞台を目指して芝居をつくってきました。この『走れメロス』はその最たるものです。

中学校の教科書に多く取り上げられていることもあり、誰もが知るこの小説ですが、この舞台を観て初めて、その本質に触れることができるのではないのでしょうか？ 友との約束を守ったメロスの美談としてではなく、その間にどれだけの葛藤がメロスとセリヌンティウスの中に渦巻いたのか。肉体とはなんと頼りないものなのか。そして、格好よくもなく、ボロボロになっても、最後にもう一度走りはじめたメロスの背中を押したものは何だったのか？ たくさんの疑問が生まれ、たくさんの発見が、この舞台をとおして得られるのではないのでしょうか。

運動選手などではない俳優たちの、その生身を賭けた挑戦、舞台をまっとうしようとする思い、情熱が、『走れメロス』という物語と相まって、ようやくこの作品が完成します。

日常生活圏にある学校の体育館が劇場に変わり、その空間を共有しながら、演劇体験をすることは、子どもたちにとってとても貴重な体験であり、小学生・中学生という年代でしか経験できません。参加型から垣間見える一面は、学校の姿を変えるだけでなく、クラスメイトの普段見えない一面が見えてくることも魅力の一つです。祝祭的な芸術体験をすることで、そういった一面や、この取り組みを通じて変化する一面、そして終演後の様々に違った感想などに驚き、感動し、出会い直しができるものまた素晴らしい体験となります。

もう一つ大切なこととして、演劇は総合舞台芸術であるということです。一人の芸術家が何かを表現するだけでなく、複数の才能あふれるアーティストたちの想像力の結集であるということです。それは時に時代も越えて、作品に昇華されます。そして、共演することで、その創造の一端を担うことの重責と、上演が終わった後の共感、演劇ならではの感動だと思います。

また、わたくしたちの劇団は、「体育館を劇場に！！」ということに大きくこだわって活動続けてきています。その文字通り、ダイナミックな舞台装置と、照明は、どの学校に行っても、驚きで迎えられています。プロフェッショナルの手によるこの試みは、必ず児童・生徒の心に残るものになると確信しております。多くの子どもたちに出会ってみたい作品です。

**②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫**

ワークショップ実施前に、様々な資料をお送りします。児童・生徒の参加について、講演の実施について、など、細かく上演に向けての手引きになります。これは東京演劇アンサンブルが、30年を越える、党事業で培ったノウハウを示したものです。

その際に、ワークショップの実施方法などリサーチします。特に、選抜チームを構成するかどうか、演奏などの特別な共演を希望するかどうかなどです。できるだけ、日常での負担を軽減にしたいという学校には、全校での群読と合唱のみという対応も可能であることもお伝えします。

劇団側から事前に台本や音楽データなどをお渡し、ワークショップ前に子どもたちに耳慣れるようにしていただくなどの工夫ができるようにします。子どもたちに耳慣れるよワークショップ後の練習に関しては、学校の授業などに負担にならないような練習方法などを提案や、アドバイスをできるよう準備しております。

最終的に確認できるよう、公演当日も、短時間でのリハーサルを実施します。短時間でのリハーサルを実施します。また、劇団側からは、演出助手が客席に児童・生徒とともに座り、参加に関するすべてをフォローするので、1回限りの挑戦が実りあるように配慮できるかと思えます

公演まで約1ヶ月程度の練習期間でも、必ず課題を残し、各学校で自主的にオリジナリティのあるものを思案していただくと思います。課題への挑戦と達成感という当事業における2つの大きな要素がきちんと経験できるよう進めたいと思います。

本事業に対する  
取り組み姿勢、および  
効果的かつ円滑に実施  
するための工夫